区老連だより

東灘区老連

湖南三山紅葉めぐり

11月22日（火）の日帰りバス旅行は、7月の桃狩り旅行のバス6台207名を上回る253名が参加。前回の昼食・観光やトイレの混雑を緩和するため、2班に分け30分の時間差を設けて実施。

昼食風景

当日は絶好の行楽日和となり、前後の日が雨天予測だけに幸運に皆が拍手！

目的地の湖南三山は2004年に石部町・甲西町が合併して、湖南市が誕生した時、観光の目玉としてスタートしたとのこと。

紅葉とお寺

知名度は低いが、創建は奈良時代に遡る天台宗の名刹。善水寺、長壽寺、常楽寺のいずれもが、多くの国宝となっており、由緒ある寺院で人気急上昇。

観光途中の昼食場所は、「信楽陶苑たぬき村」で大きな狸がお出迎え。多くの観光客で、接客も大わらわの様子。お土産コーナーにはさすがに陶器類が多い。お昼はバタバタしたが、それが帳消しになる程の紅葉の見事さに皆は感動。

紅葉の赤や黄色の変化の有る色合いと足元の真っ赤な満天星（どうだんつつじ）、背景の緑や紅の木々との対比も面白い。参道の落ち葉も色とりどりで落ち葉拾いも楽しむ。寺院もそれぞれ特色があり、多くの国宝・重要文化財が間近に見られ、親しみを感じる。住職の軽妙な話しや国宝ならではの修理費用の問題（檀家もなく、国費負担不足を拝観料で）を考えさせられた。常楽寺の三重塔と紅葉は絶好の撮影ポイントで夢中になる。

途中の大津ＳＡでの買い物も考慮し、3時半頃に帰路に向かう。

天候も紅葉も事故なく最高の旅であった。次回の三社参りに期待。

北区老連

北区老連恒例「新春座談会」開催

今年度50クラブ中、女性会長9名・女性部会長（会長外で選任）が会長会で席を占め、雰囲気が一変した感があります。その状況を会員さんにお伝えできればと、例年と趣向を変え〝女性会長大いに語る〟のタイトルで企画し「新春座談会」が開催されました。北区老連久保会長の挨拶に続き、今年度就任された北区役所金本区長・北神区役所柏木担当区長からは、シニアクラブが地域の中で活躍することが地域の活性化につながりますので応援しますとのメッセージをいただきました。

座談会メンバーの皆さん

活発な意見交換も

テーマは会員歴・会長歴・会長就任時の自身および会の状況・活動の中での「喜怒哀楽」のエピソード・今後の抱負など語っていただきました。

北区老連副会長で総務部の吉田部長が皆さんの緊張をほぐすトップバッター…続いて座席の時計回り順に3分間スピーチ。新人の1年生からベテラン8年生？まで、ざっくばらんにお話していただきました。〝人生悲喜こもごも〟会長として頑張っておられるのは共通で、皆さんの発言にうなずいたり笑ったり会場は終始和やかな雰囲気で進行しました。父親が立ち上げた老人クラブが解散の危機になり、会長を引き受けた君影友の会会長。また、前会長の突然の死去で、お葬式の日にまちづくり支援課に会長変更届を提出した、北鈴若葉会の浜田会長の発言は胸に迫り、彼女の決断に大きな拍手を送りました。ハンディは特に女性だからというだけでなく、生まれた時から男性女性関係なく違った形で背負って克服しながら今に至っているものと思います。今老人クラブではコロナ禍による活動の自粛や会長不在で解散の危機を抱える問題があります。この座談会が一つの解決のカギになればと思っています。

最後に出席された皆さんが令和5年も健康にご活躍されることを願って閉会となりました。

長田区老連

秋の日帰り旅行（京都・滋賀）

令和4年10月25日（火）、総勢77名が2台のバスに分乗し、少し肌寒いが澄み切った絶好の旅行日和の青空の下、最初の目的地である京都の平等院へと向かった。10円硬貨に載っていて、世界文化遺産に登録されている「古都京都の文化財」平等院は、阿字池の静寂の中に、威厳を持って建っていて深い感銘を受けた。コロナ禍も小康状態が続いていてもやはり京都、修学旅行生が多く見受けられた。その後、宇治茶で有名なお茶の名店が並ぶ宇治の街中を抜け、滋賀県大津市へ。石山寺の門前へ今日の昼食会場の洗心寮に到着。店の眼前を流れる瀬田川は、全国有数のしじみの産地。しじみを炊き込んだ「しじみご飯」は絶品。湯葉、酢味噌で味わう鯉のあらい、若鳥の寄せ鍋等どれもこれも美味しく頂き完食。その後、皆さま店内で近江のお土産品を物色。

宇治「平等院にて」

次に、「びわ湖大津館イングリッシュガーデン」を訪問。2015年に完成したこの庭にはバラを中心として、ラベンダーやハーブ類が300種、3,000株で構成されている。バラも最盛期にはまだ早いのか咲いている花が少なく残念な気がしたが、湖畔の庭園で湖面をヨットが滑るように走っているのを見るのも風情があった。その後、最後の立ち寄り先の井筒八つ橋本舗にて皆さま京都名産の八つ橋を買い求め、定刻の午後5時半前に無事長田に帰着。

今回の秋の旅行は天候に恵まれ、交通の混雑にも遭わず、皆さまと次回での再会を念じての散開となった。